

(福)特別区社会福祉事業団

広報誌

増刊号

SEED



みのり舎
MINORI-YA

特集

ありがとう みのり舎



Pickup

女性更生施設けやき荘

厚生関係施設の存在意義とはなにか？

初めから私事で恐縮ですが、私がNPOのソーシャルワーカーとして生活困窮者の支援にかかり始めたのは、2003年のことでした。当時、そのNPOの活動地域の一つである隅田川の河川敷には、100を優に超える路上生活者のブルーテントが並んでいました。毎週、アウトリーチを行っていましたが、仕事を失って新しく路上生活になった方と出会うことも少なくありませんでした。「存知のように、現在の状況は様変わりし、路上レベルのホームレスは減少し続けている反面、広い意味のホームレス状態にある人々が増えていると言われています。また、ホームレス状態に至る要因も単純な失業だけでなく、広い意味での障害、家族関係の悪化など複雑な要因が絡み合っていることも様々な調査から明らかになっています。

ルコール症者」の割合が増えています(図2)。入所理由では、「住所なし」の割合が減少し、「病院退院後帰来先なし」「現住所立ち退き」の割合が増えています(図3)。(なお「病院退院後帰来先なし」の病院は、精神科の病院であることも少なくないようです【前号「入所調整事務円滑化事業」参照】)。まとめると、約20年前と比べて現在の更生施設は、幅広い年齢層の人、広い意味でのメンタルヘルスの不調を抱える人、現在の住まいを何らかの理由で維持することが困難な人が利用している傾向にあるようです。こうした変化は、更生施設のみならず、当法人が運営する他の種類の施設にも同様に表れているものと推察されます。

更生施設の数の増加や機能の違い、病気の診断基準、福祉事務所の更生施設の使い方の変化、類似施設の増加などもあるため、結果は参考程度にとどめる必要があります。とはいえ、この間のホームレス状態にある人々の実態の変化が、少なくない影響を与えてきたことは間違いありません。

さて、述べてきたような利用者属性の変化は、施設での支援においてこれまで以上に専門的な支援が求められることを示しています。現在、無料低額宿泊所や日常生活支援住居施設のような、ホームレス状態にある人々が利用できる施設が増えていますが、そのような中において厚生関係施設の存在意義とは何かと考えた時、それはまさにその専門的な支援を展開していることにあるのではないかと



PROFILE
後藤 広史
立教大学コミュニティ福祉学部教授

このようなホームレス状態にある人々の実態の変化は、厚生関係施設の利用者の属性にどのような変化をもたらしているのでしょうか？ここでは更生施設を例にとり、2000年度と2022年度の利用者の属性を比較してみました。年齢をみると、「49歳まで」の利用者と「70歳以上」の利用者が増え、年齢層が幅広くなっていることがわかります(図1)。障害の有無では、「身体障害者」の割合が減少し、逆に「精神障害者」「ア

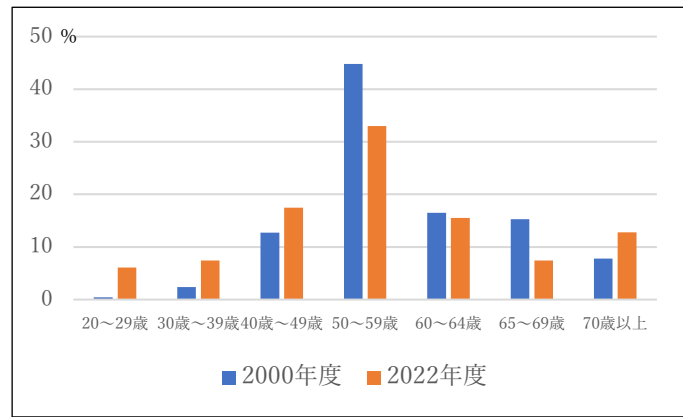


図1

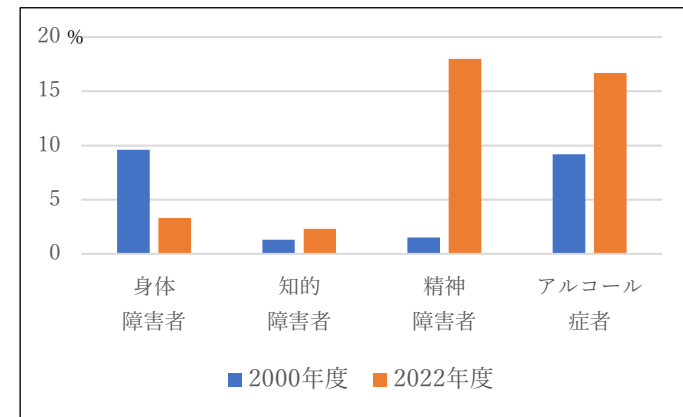


図2

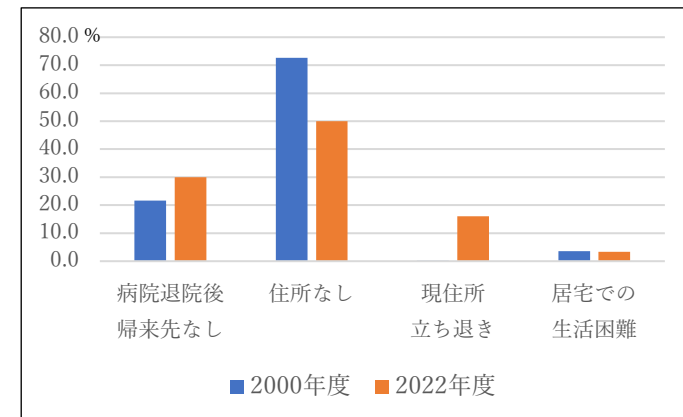


図3

更生施設 けやき荘



生活保護法に基づく更生施設の中でも、女性を対象とする更生施設は東京都内に3つ。その中の一つであり、当法人が運営する唯一の女性更生施設「けやき荘」取材しました。

施設概要

利用者 女性単身
定員 入所30名
通所14名 訪問1名
3階建て エレベーターあり
※秘匿の施設のため、住所や電話番号等は掲載しておりません。詳しくは法人本部(03-6666-1046)までお問い合わせください。

所内作業

生活リズムの回復や、生活意欲の向上を目的に手芸品「けやきブランド」を制作しています。町内のイベント等で出店販売しており、地域の皆様からも好評をいただいています。けやき荘でも随時販売していますので、是非お買い求め下さい。



雑巾、アクリルたわし、ミサンガ、ネームストラップ。ストラップは職員にも人気です。



けやき荘職員の方たち

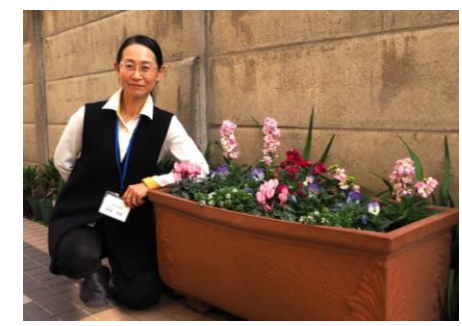


プログラム

利用者さんが日中活動に参加できる機会の場として、日替わりでプログラムを実施しています。SSTなどのトレーニングを始め、季節行事、調理実習、アパート生活体験談、卓球、ネイル、博物館の見学…と内容は様々です。

入退所の流れ(※イメージ)

	1か月目	3か月目	6か月目	10か月目	退所後
利用者	けやき荘の生活に慣れる	心身の回復に努める	プログラムにて自炊訓練 通院・服薬の自己管理	就職活動開始	施設借上げアパートにお引っ越し
施設職員の支援	支援計画の策定 通院・服薬・金銭管理のサポート	通院や手続きの同行	通院・服薬の自己管理に向けて段階的に支援	ハローワークへ同行	通所事業における生活相談、通院・服薬管理の確認



けやき荘 所長 橋本 博美
 出身地：東京都深大寺
 入職のきっかけ：福祉専門学校同窓生からの声掛け
 好きなこと：田んぼのカエル観察、入浴、旅、ヨガ・ピラティス(ライフワークです)

ルールはあるが、まずは受け止める
 2、3年程前までは、身体的な介助が必要な方の入所が多かったのですが、近年は10〜20代の若い世代の入所が増加傾向にあります。更生施設では入浴や食事の時間が決まっています。基本的には集団生活となりますが、お話をしたうえで個別対応も柔軟に行っています。もちろん、施設の規則では希望に添えないこともあります。ただ、入所された方のお話をまずは受容して、レスポンスを丁寧に繰り返していくことで、施設を「自分の居場所」と認識してくれる方が多いようです。

「けやきブランド」や「プログラム」など独自の支援を行っているけやき荘。橋本所長にインタビューを行い、施設の特長やチーム支援についてお話を伺いました。



退所後も柔軟に支援します
 利用者の中には「けやき荘で初めて相談したい」と思える人に出会えた」という方が多くいらっしゃいます。通所訪問事業では、退所してからもけやき荘の職員が定期的に安否確認や服薬管理、生活の相談援助等の支援を継続し、日中の活動の場も提供しています。地域での生活に慣れていく過程で、相談しやすい施設と繋がりを維持し続けることは、長い間、不安にさらされてきた利用者の方にとって大きな安心感なのだと思います。
 地域で暮らす中で医療関係者とのコミュニケーションがうまくいかず、利用者の体調が悪化した時、けやき荘の職員が介入したことで大事に至らなかったこともあります。職員は施設生活中にその方の性格や「どんな時に辛くなるか」といった特徴などを細かく把握しているため、退所後も状況に応じて関係機関と連携し、地域生活に馴染めるよう柔軟に支援しています。

チームでの細やかな個別対応
 利用者の方は虐待やDV・性被害等・成育歴のどこかで暴力を受けている方が多く、精神・知的・発達・身体等重複した障がいもあるなど、困難を抱え生きてきた方がほとんどです。職員は入所された方に対して、まず「心の扉を開いてもらう」ための関わりに注力しています。担当の職員だけでなく栄養士や看護師も含めた職員全体で「こんな声かけなら反応してくれるかも」などとアイデアを共有しあい、実践しています。
 利用者の方が職員に対して怒りを爆発させたり、嘘をついたりすることがあっても、それが彼女たちが生き延びるために必要なスキルだったとすれば、私たちは彼女たちの主張をしっかりと受け止めて、なかったことにはいけません。どんな訴えもまずは受け止めて、その方がまずは施設で、将来的にはその方の目標とする地域で生活できるように考えて、工夫しながら対応しています。
 利用者の方に合わせた段階的な服薬管理の支援、通院同行、就労を目指す方なら就労支援、食事を抜いた時は必ずお声がけしたり、様子が変わった時は面談したり、細やかな個別対応を心がけています。自傷他害など安全を守ることはできない状況でなければ、トラブルがあっても施設での生活を続けられるように職員で知恵を絞っています。

橋本所長へのインタビューを終えて
 インタビューを終えて私が感じたのは「あなたの価値観を大切にしながら、ここで人生の再出発を応援させてほしい」という、けやき荘からのメッセージです。もちろん施設には守らなくてはならないルールがありますし、中には「職員に構われるのが嫌だ」という方もいるかもしれませんが、それも含めて、「これまで大事にしてきた価値観は入所してからでも主張して大丈夫！職員も受け止めます」という支援姿勢です。
 令和6年度からは、保護施設一時入所事業にもチャレンジする予定です。ルールを説明されても、実際に生活できるか不安な方に「体験」という形で利用していただきたいという思いで事業開始の準備をしているということです。



食堂



居室

プログラムは「ネイル」が好評
 日課づくりとプログラムには、ラジオ体操や健康相談、調理実習などがありますが、全体を通して「自信をつけてもらえる働きかけ」を意識しています。最近はネイルが好評で、職員に教わりながらセルフネイルを楽しんでいただいています。「アパート生活体験」というプログラムでは、OGの方にアパート生活の体験談を話してもらい、入所の方がアパート生活で気を付けること、準備することなどのイメージを膨らませていただく機会としています。



利用者インタビュー



質問項目に沿って、利用者さんにインタビューをしました！

- Q1.みのり舎を一言で表現してください
- Q2.みのり舎を利用してよかったことを教えてください
- Q3.職員との思い出深いエピソードを教えてください
- Q4.みのり舎や職員にメッセージをお願いします
- Q5.今後の目標を聞かせてください

A1. アートを描く場所です。絵を描き始めてから2年経ちましたが、たくさんの人に絵を見てもらうことがとてもうれしいです。

A2. 8年ほど前からみのり舎を利用しています。最初は、作業に参加することが不安だったり、緊張していましたが、今では、作業をすることが好きになっています。

A3. 生活訓練で料理を作ったり・カラオケ・外出など楽しい思い出ばかりです。私も自分で描いた絵を買っていただいた方と直接お会いする機会があったり、SNSで作品を上げて頂いたりなど、自分の作品がたくさんの人に見てもらえてとてもうれしいです。

A4. 最初は、服薬管理をみのり舎で行ってもらっていましたが、今では自分で服薬管理をできるようになりました。また、悩み事とかがあった時は、職員さんにすぐに相談をすることができて、すごく助かりました。ありがとうございました。

A5. もっと自分が描いた“アート”が売れるように、良い作品を描いていきたいです。作品を描くことを“あーと”回しにせず、頑張っていきたいと思います。

杉本さん

A1.作業をする場所です。最初は絵を描くことが苦手で、「上手に書かないといけない」と思っていたが、たくさんの絵を描いていくうちに慣れていき、絵を描くことが大好きになりました。

A2.みのり舎に通い始めてから3年経ちます。最初は、作業に慣れるまでは大変でしたが、今では自分のペースで作業ができており、充実しています。

A3. 自分から質問をすることが苦手ですが、職員さんから話してくれるので助かっています。また、自分が描いた絵が売れた時は、すごくうれしいです。

A4. みのり舎の職員は、皆さん優しくて良かったです。わからないことがあった時は、親切に教えてくださり、ありがとうございました。4月から職員が変わると聞いて、会えなくなるのが、少し寂しいです。

A5. よりもっと絵を上手に描いていきたいです。良い絵を描いて有名になりたいです。全国大会があるのであれば、優勝を目指すくらい頑張りたいです。

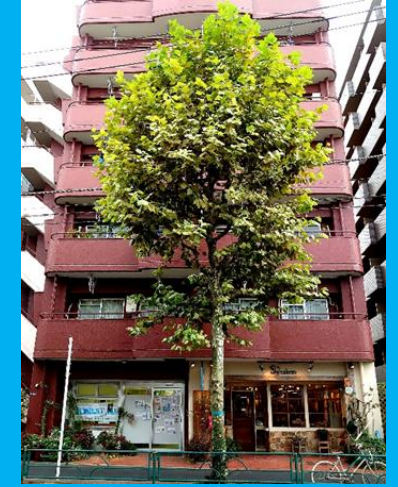
小堺さん

ありがとう みのり舎

平成24年から障害福祉サービス事業所として当法人が運営してきたみのり舎ですが、令和6年度より社会福祉法人東京ムツミ会様へ事業を引き継いでいただくこととなりました。今号では、12年間のみのり舎の歩みを振り返ります。

みのり舎のあゆみ

- 平成24年4月 みのり舎 開所
就労継続支援B型、自立訓練（生活訓練）開始
- 平成27年5月 指定計画相談 開始
- 令和5年3月 自立訓練（生活訓練）事業終了
- 令和5年5月 指定計画相談 事業終了
- 令和6年3月 就労継続支援B型 事業終了（予定）
- 令和6年4月 社会福祉法人東京ムツミ会様に事業譲渡（予定）



みのり舎の活動



ART -制作-

- 和装・着物をリメイクしたバック布小物の制作
 - みのり舎アールブリュットプロジェクト
- ※アールブリュットとは…
“生(き)の芸術”とも称され、あらゆる人々による内面から湧き上がる衝動をありのままに表現した芸術活動のことです。

紹介動画はコチラ



WORKS -作業-

内職作業

- 弁当箱の組立作業
- キムチ袋の折り作業
- ファンシーショップのバースティカード組立作業
- 大学生協のチラシや絵葉書の丁合作業
- クリーニング店のハンガー仕分け
- 雑貨部品の組立作業

屋外作業

- 新宿区障害者による地域緑化推進事業（指定花壇の保全管理）
- 新宿区公園サポーター
- 新宿区内の消火器点検
- 福祉施設の管内清掃、日常清掃
- 四谷区民センターでの養蜂作業（見学可能!!）

利用者の船車さんはアーティスト名「ベガサス」として活動しています。



みのり舎 回顧録

— 当時と今を振り返って —



(左から) 彦坂さん、後藤さん、木村さん

当法人での事業終了にあたって、社会福祉法人東京ムツミ会様に引き継いでいただくことになったみのり舎。元施設長の彦坂さん・木村さん、現施設長の後藤さんに集まってもらい、座談会形式で当時と今を振り返りました。

—— 本日はよろしくお願ひします。早速なのですが、施設長として施設運営で心がけていたことはありますか。
(彦坂) 当時は作業が多く、納期に追われるなど大変忙しい状況でした。朝早くから夜遅くまで作業することも多かったです。利用者さんも職員もよく頑張っていたと思います。だからこそ、利用者さんには楽しく作業に取り組んでもらえるよう心がけていました。また、みのり舎の活動が地域に浸透していなかったこともあって、地域の人にみのり舎を知っていただき、理解してもらいたいと思い、盆踊りや防犯パトロール等にも積極的に参加していました。
(木村) 私の時はコロナの影響で地域行事の中断もあり、地域との関わりがでない状況でした。地域の情報を収集していましたが、回覧版も回らなくなり、いろんな活動が中止になりました。「コロナ前とコロナ後で運営のあり方も変わった気がします。」
(後藤) みのり舎は利用したい人が契約する事業になります。だからこそ、楽しくて活動的でやりがいのある時間を提供することに運営側は注力し

ています。地域生活を楽しく継続してもらう、工夫という形で就労した実感を得ていただく、その生活を継続していただくことを心がけています。
—— 利用者さんとの思い出深いエピソードを教えてください。
(彦坂) 利用者さんとの距離感が近いです。いろいろなお話をして、作業を一緒にやって、当時は調理員を配置し食事サービスを実施しており、利用者さんと一緒に食事することもありました。
(後藤) その当時を知っている方からは、いまも「あの時の頃ははおいしかった」と話す利用者さんもいます。
(木村) ちなみにメニューは近隣の更生施設の栄養士さんが監修してくれました。
(彦坂) 利用者さんと一緒に買い出しに行ったのも懐かしい思い出です。
—— 食事サービスを実施していたのですね。みんなで買い出しに行っていた事をする。そのような距離感の近さが、利用者さんの毎日の楽しみの一つになっていたんだらうなと感じられます。
(木村) 基本的にはみんなの居場所

クローズメイト みたいな感じですね

芹澤さん

- A1. 良いところ
- A2. . . .
- A3. . . .
- A4. 職員みんな良い人。作業を優しく、丁寧に教えてくれて... 12年間、職員は全員良い人ばかりでした。
- A5. 身体が続く限り頑張ります。

- A1. . . .
- A2. 作業を全部できた時、職員に褒められたこと、良かった。作業を間違えた時、職員に注意されたこともありました😊
- A3. 更生施設塩崎荘の清掃作業が楽しかった。もうないのが残念。
- A4. 11年、感謝の気持ちでいっぱいです。職員、皆さん感謝です。
- A5. 健康に、毎日仕事できるように頑張ります。

山下さん

- A1. ハートフルなところ
- A2. 生活リズムが良くなった。メリハリがついた。時に環境に甘えて欠席もしちゃった。
- A3. 緑化作業の研修。普段見られない職員の姿や笑顔が見られたこと。
- A4. 身体が資本です！健康第一で頑張ってください。
- A5. おばあさんになるまで頑張ります。

さぎや 鷺谷さん



施設長から利用者みなさんへ



近年、みのり舎は独自作業・活動として、地域住民等の皆様からご寄付いただいた着物・帯や不要になった布、画廊などで不要になった廃材品をもとに、自主製品(布小物・雑貨)の制作販売や、絵画などのアート作品の制作販売を積極的に行ってきました。これら新しい取り組みに挑戦できたのも、今回インタビューに答えてくださった長年通所する皆様が、どっしり構えて、長い年月着々・地道に内職作業や屋外活動に取り組み、みのり舎を支えてくださった成果でもあると思います。

地道に積み重ねながら取り組んでいく内職作業も、自主製品の出店販売、アート作品の制作・ギャラリー展示など華やかで目を引く活動も、どちらも様々な考え、自身の得意を生かした生産活動に生き生きと取り組んでいただいた結果、今のみのり舎があるのだと思います。利用者の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



若手職員の2人。新宿伊勢丹での出店販売の様子

しそうでなかった場合、利用者さん1人1人の次の居場所を確保するため、後藤施設長を始め現場は大変な思いをしていたはず。東京ムツミ会さんに関しては、開設当初から色々と相談をさせていただきました。「コロナ禍においても情報共有していただいたので、感謝しかありません。法人としては「引き受けてくれたからよかった」ではなくて、今回の事を忘れず、「今後には活かさなければならぬ」という気持ちです。



(編集)清水、撮影)早瀬 (写真提供)みのり舎



第2回新宿アールブリュット企業展で杉本さんが表彰されました。

との思いから手を挙げてくれたとお話をしてくださいました。「新宿区の財産のひとつを失うわけにはいかない」とまで言うってくださいました。「自身の作業所だけではなく、新宿区全体の障がい者の方達がどう楽しく生活していくかという広い目で見てください。みのり舎の開所当初から、助けてくださったことをありがたく思っています。感謝だけで終わらせないで、これまで培ったノウハウを今後の事業展開に活かせるように職員を育てていかないといいけないなと思いました。

(彦坂) GOOD LUCK



1

①新宿区障害者福祉事業所等ネットワークが立ち上げた「しんじゅ Quality みつばちプロジェクト」に参加。養蜂作業を行っています。
②採蜜したはちみつは「新宿しQ ハニー」として販売。100%新宿産、非加熱で希少な百花蜜は大好評。
※みのり舎受注分は完売。



2

なっているというか、相談できる場所というのでしょうか。緩くつながりがあって、仲が良いわけではないけれども、「一方がないときは」あの人がいないね」と話したりして、お互いを思いやっているところがあります。

翌日も通所していただきます。(木村) 私は一職員としてキラキラした時代に在籍していたこともありまして(笑)。女性利用者さんの割合が多くて、利用者同士の恋愛模様や揉め事もありました。ただ、全体としては職員も含めてみんなで協力して作業をしていました。納期が迫っていて「誰か手伝って」というと手伝ってくれる。遅い時間まで協力してくれたこともあって、そういう頑張ってるゆり遂げた達成感が利用者さんの働く喜びというか、「自分が頼りにされている」という存在意義を感じる部分もあるのかなと思います。職員の仕切りが悪いと「何やってるんだ!」とツツ」ま

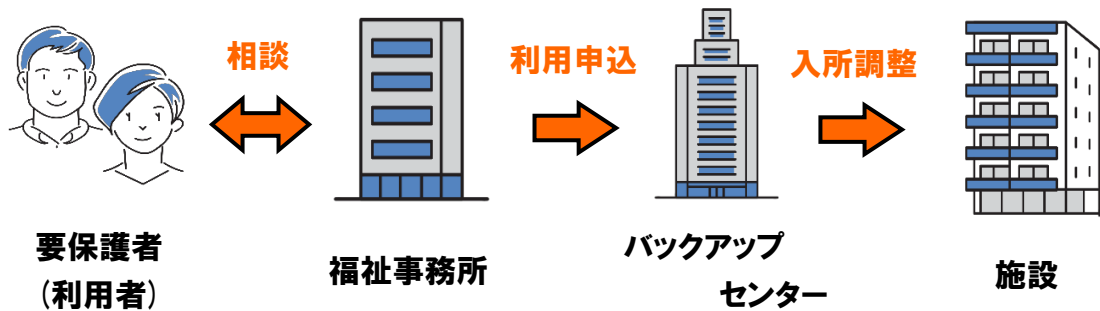
れるくらい前向きでしたね(笑) (彦坂)今はだいぶ作業のやり方が変わりましたよね。働き方が昭和から令和になっています。

き受けるんだ!」「スパルタがない!」等々言われましたし、「汗を流して遅い時間まで作業したのが懐かしい!」とも言われましたね(笑)。作業のレベルが高くてトライ出来ない利用者さんが一人でも減ってほしくて、みんながいろんなものに携われればと思っていますが、先ほど話した利用者さんからは「根本が合わない!」とギョギョ言われていましたね(笑)



——作業所にも働き方改革が反映されているのですね(笑)。最後に「事業終了に向けてのメッセージ、また、事業譲渡に対する思いをお話してください。」 (木村) 利用者さんの姿を見ると、法人として自分たちで始めたにもかかわらず、「このような結果になってしまえば本当に申し訳ないなと思いますし、悔しい気持ちです。今回、(福)東京ムツミ会さんが事業譲渡を引き受けていただけるといってお話があったので、今日のような気持ちで話ができるのですけれども、も

施設利用・申込について



福祉事務所のみなさま

更生施設 けやき荘

バックアップセンターへご連絡ください。

(03-5210-9035)

みのり舎について

法人本部へお問い合わせください

(03-6666-1046)

※その他 施設利用に関するお問い合わせ

(03-5210-9032)

医療機関等・支援関係者のみなさま

施設への入所は、福祉事務所からの依頼が必要です。まずは担当のケースワーカーへご相談ください。また、法人本部（03-6666-1046）まで直接お問合せいただくことも可能です。

バックアップセンターとは？

施設の入退所の調整を行うところです。特別区人事・厚生事務組合が運営しています。略してBUCまたはB/Cと表記することもあります。塩崎荘はバックアップセンターの調整なしで入所可能です。

事務局

清水のしょうもない話

アルバイト時代の話です。店長から「新商品の売上を伸ばしたい」と相談されました。「任せてください。結果を出してみせます」と返答した時の店長の表情は今でも忘れません。考えた末、売り場を改造して、来店されたお客様には新商品を営業しました。期待したほど売れず、売り場を改造したことでパートさんから怒られましたが、優しい店長はありがとうと言ってくれました。「また考えますね」と返答した時の表情も忘れません。

編集後記

今回は、みのり舎のインタビュー・撮影を担当させて頂きました。利用者・職員含め、皆さんの笑顔がとても素敵でした。今後もより良い広報誌を作って参りたいと思います。

【制作・編集担当】 早瀬

本号の

COVER MODEL

みのり舎 職員のみなさん

(後列左から) 濱津さん、田中さん、後藤さん
(前列左から) 森本さん、斉藤さん

COMMENT

田中さん

もともと細かい作業が好きなので、自主製品の開発や試作が楽しかったです。作業で出会ったクラフトバンドや水引は趣味になりました。

斉藤さん

前職で販売をしていた経験から、レイアウトを考え商品を並べたり販売会での販売スキルが活かされたことがやりの一つです。